

[一般教養科]

[区分 A]

野口 裕子

『彩霧への道程』

野口裕子

新居浜工業高等専門学校一般教養科

「解釈」7・8月号（解釈学会発行）平成20年8月

『彩霧』は、円地文子の最晩年の作品で、『軽井沢』として連載していた。単行本として上梓するに当たって『彩霧』としたものである。架空の「賀茂斎院絵詞」（円地による創作）が作中で紹介されており、円地の古典受容形式として最終段階に位置する作品である。『彩霧』が先行作品『猫の草子』への批評に答えるものとして書かれたことを立証することを中心に、同氏の他の作品との関わりについて、論じたものである。

鹿毛 敏夫

戦国大名領国の国際性と海洋性

鹿毛敏夫※

※新居浜工業高等専門学校一般教養科

史学研究（広島史学研究会）、第260号、pp1-17、(2008.6)

中世日本の戦国大名領国をマクロの視点から複眼的に考察していこうとする論考で、その領国は、地理的かつ政治的に日本列島の国家秩序と環シナ海域の国際秩序に両属するものとして考察した。海・都市・宗教という3つの切り口からの分析により、日本の中世社会が有する豊かな国際性と海洋性の特質を明らかにすることができた。

鹿毛 敏夫

川からの中世都市

鹿毛敏夫※

※新居浜工業高等専門学校一般教養科

戦国大名大友氏と豊後府内（高志書院）、pp59-86、(2008.7)

本稿では、従来、漠然としか唱えられてこなかった日本の中世都市と川・海・港との関係を、都市空間の内部的機能や立地、周辺環境との連関構造のなかでとらえ、その水辺空間の中世的様相を明らかにした。また、その成果をもとに、現代とは自然・社会・環境的に著しく異なっていた中世都市の機能的構造の特質を導き出した。

鹿毛 敏夫

書評 本多博之著『戦国織豊期の貨幣と石高制』

鹿毛敏夫※

※新居浜工業高等専門学校一般教養科

史学研究（広島史学研究会）、第262号、pp80-87、(2008.9)

近年、日本の貨幣史研究はめざましい進展を見せ、議論も活発にかわされている。なかでも、中・近世移行期の貨幣史研究は、1990年代以降の十数年間で最も著しい進歩の見られた領域である。本稿では、本多博之氏の新刊著作を論評しながら、日本の貨幣史研究の現状を整理するとともに、古代貨幣史から中世への見通しの停滞と、中国からの銭供給の問題を含めた世界規模での貿易構造の転換のなかで日本の貨幣史研究を進めていく必要性を指摘した。

木本 伸

ベル『そして何もいわなかった』 試論—住みえない世界から住みうる世界への転換点—

木本伸*

* 新居浜工業高等専門学校一般教養科

ドイツ文学論集、第41号、日本独文学会中国四国支部編、pp.5-16、(2008.10.)

ハインリヒ・ベル『そして何もいわなかった』の作品解釈である。

福光優一郎

幼児期における母語意味処理の発達的变化と非母語活動の影響 ～ERPを用いた縦断的検討～

鈴木結花*1、柴田寛*2、福光優一郎*3、小泉政利*1、行場次朗*1、萩原裕子*4

*1 東北大学大学院文学研究科、*2 京都大学大学院情報学研究科、*3 新居浜工業高等専門学校、

*4 首都大学東京人文科学研究科

電子情報通信学会技術研究報告（信学技報），Vol.108, No.184, pp.49-54, (2008.08)

日本語の意味逸脱処理に関わる事象関連電位（ERP）の発達的变化および非母語活動の影響について、日本語を母語とする幼稚園年少と年中の幼児を対象に縦断的に調べた。意味的に逸脱した文と逸脱していない文を聞いたときのERPを測定した結果、意味処理に関連するN400の潜時と頭皮上分布において、年少期と年中期との間に差がみられ、後期陽性成分（LPC）が年中期においてのみ生じた。また、非母語（英語）活動頻度に関する分析から、N400において年少児では頭皮上分布の広さ、年中児では潜時において英語活動頻度の高低で差がみられた。また、幼稚園在園中は英語を使用する年中児においてはLPCが観察されなかった。本研究の結果から、就学前児の母語の意味処理に関わるERP成分が、時間帯および頭皮上分布において発達にともなって変化し、幼稚園における非母語（英語）への接触もERP成分に影響をおよぼす可能性が示された。

福光優一郎

Scrambling effects on the processing of Japanese sentences: An fMRI study

Jungho Kim*1,*2, Masatoshi Koizumi*1,*7, Naho Ikuta*4, Yuichiro Fukumitsu*1, Naoki Kimura*1, Kazuki Iwata*5, Jobu Watanabe*6, Satoru Yokoyama*4, Shigeru Sato*3, Kaoru Horie*3 and Ryuta Kawashima*4,*7

*1 Graduate School of Arts and Letters, Tohoku University, Sendai, Japan

*2 Postdoctoral Fellowships for Foreign Researchers, Japan Society for the Promotion of Science (JSPS), Tokyo, Japan

*3 Graduate School of International Cultural Studies, Tohoku University, Sendai, Japan

*4 Department of Functional Brain Imaging, IDAC, Tohoku University, Sendai, Japan

*5 LBC Research Center, Tohoku University 21st Century Center of Excellence Program in Humanities,

Sendai, Japan

*6 Consolidated Research Institute for Advanced Science and Medical Care, Waseda University, Tokyo, Japan

*7 RISTEX, JST, Tokyo, Japan

Journal of Neurolinguistics, Volume 22, Issue 2, pp 151-166, March 2009

The present study aims to confirm the cortical correlates of scrambling effects, a free word order phenomenon that has been observed in a variety of cross-linguistic investigations but whose mechanism still remains unclarified. Many syntax-oriented hypotheses on scrambling have been provided to develop the structural basis of the free word order permutation in Japanese, leading to the most recent phrasal architecture, in which the object noun phrase of a transitive sentence “moves” to a higher position than the subject to form an asymmetric structure including antecedent-gap relationships. Such a configurational structure formed by scrambling operation predicts that the scrambled sentences have a more complex structure than canonical sentences, and that the former requires a greater burden on cognitive processes in related areas within the brain. Based on this general assumption, we employed an experimental method of whole-sentence presentation of Japanese transitive sentences, for both canonical transitive sentences (Subject-Object-Verb) and their scrambled counterparts (Object-Subject-Verb). The result showed more activation at the left inferior frontal gyrus (IFG) and the left dorsal prefrontal cortex (DPFC) during the comprehension of scrambled sentences than that of canonical sentences. This indicates, in accordance with previous findings on scrambling from neurolinguistic perspectives, that the scrambling in Japanese is indeed one of the grammatical operations and that the parsing strategy for the asymmetric antecedent-gap relationship demands an additional cognitive activation in the brain.

荒木 陽子

「故郷」の表象とアメリカ文芸マーケット—19世紀末カナダ詩に表れる『エヴァンジェリン』のイメージをめぐって—

荒木陽子*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

『東北アメリカ文学研究』, 第32号, pp. 5-15, (2008. 3)

所属する日本アメリカ文学会東北支部の紀要への執筆。Charles G. D. Robertsは、19世紀末に発表した試作品において自らの故郷の風景を描く際に、アメリカ人であるH. W. Longfellowの作り出した故郷のイメージを用いた。Robertsの詩を当時の北米の文化状況に文脈化して考察すると、Robertsが故郷を描くために、「外国人」が作り出した故郷のイメージを使用した背景には、自国の文芸マーケットが未熟であったカナダ人詩人がアメリカの文芸マーケットに依存せねばならなかった、19世紀末北米文芸マーケット特有の事情が存在することがわかる。なお、本稿は2008年10月の日本アメリカ文学会全国大会における発表の一部を発展させたものである。

[区分 B]

野口 裕子

『滋賀近代文学事典』

野口裕子

新居浜工業高等専門学校一般教養科

日本近代文学会関西支部会編集 和泉書院発行 平成20年11月

『滋賀近代文学事典』は滋賀県にゆかりのある作家・文学的事項についてまとめられた事典である。私が担当した作家「和久峻三」は多くの推理小説を書いているが、滋賀銀行で実際に起こった女子行員による横領事件を扱った作品がある。

鹿毛 敏夫

月のえくぼを見た男

鹿毛敏夫*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

くもん出版、(2008.4)

江戸時代の安永7(1778)年、オランダ人がもたらした高倍率の反射望遠鏡で、日本人として初めて月面を観察し、その観測図を残した天文家の生い立ちと業績をまとめ、伝記として刊行した。「惑星の公転周期の2乗は太陽からの平均距離の3乗に比例する」とするケプラーの第3法則を独自の観測で発見する経緯に加え、江戸時代の天体観測器具の図解や月面クレーターの写真なども掲載して、近世天文学の歴史を学生向けにわかりやすく解説した。

鹿毛 敏夫

戦国大名大友氏と豊後府内

坂本嘉弘**1、鹿毛敏夫**2、大塚俊司**3、ほか10名

*1大分県教育庁埋蔵文化財センター、*2新居浜工業高等専門学校一般教養科、*3九州大学大学院高志書院、(2008.7)

戦国大名大友氏は、鎌倉および室町幕府体制下の守護として九州の豊後国を統治した。中世400年間を通してのその領国制の展開は、もちろん豊後一国に限定されるものではなく、初代から22代まで続く歴代当主の政治・外交・経済・文化の各側面での意識とその影響は、隣接する豊前・筑後・肥後・日向の東北部九州各国のみならず、国境のない国家領域を超えて、当時「中華」「朝鮮」「南蛮」等と呼称された東アジアの周辺諸国にまで及ぶ。本書では、伸縮する領国の枠組みを、権力中枢部(豊後府内)・本拠領国(豊後とその周辺)・複合領国(九州)・海域(東アジア)の4つに設定し、その各枠組みのなかでの領国制の姿を13名の研究者で異なる研究視角から描出した。

荒木 陽子

Japan is Beautiful: Kawabata Yasunari and Yasuda Yukihiko

Sonohiro Mizuhara*1, et al., eds. Translated by Rumiko Kanesaka*2, Brian Smallshaw*3, Fujisato Kitajima*4, Mark Frank*5, and Yoko Araki*6.

*1 The Kawabata Foundation, *2 and *3 Professional Translators, *4 Professor Emeritus, Keiwa College, *5 Dept. of English Culture and Communication, Keiwa College, *6 Faculty of Human Science, Niihama National College of Technology

Ryukyudo, Sept 2008, p. 30, pp. 32-38

水原園博他編、『大和し美し 川端康成と安田靫彦』(龍求堂、2008)の英訳。同書は展覧会「大和し美し 川端康成と安田靫彦」展 <MIHO MUSEUM (2008年9月2日~2008年12月14日)、千葉市美術館(2009年4月4日から5月10日)>に関連して出版された。

荒木 陽子

書評：大矢タカヤス著、『地図から消えた国、アカディアの歴史—「エヴァンジェリンヌ」とアカディアンの歴史』書肆心水、2008年—

荒木陽子*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

『カナダ文学研究』, 第16号, pp 107-108 (2009.3)

所属する日本カナダ文学会の紀要への執筆。大矢タカヤス氏が昨年8月に出版した『地図から消えた国、アカディアの記憶—『エヴァンジェリンヌ』とアカディアンの歴史』(書肆心水、2008)の書評。大矢氏のフランス語系カナダ文学の研究者としての視点を反映したこれまでにないタイプのH. W. Longfellow著 *Evangeline*の和訳と、日本語で初めて出版されるアカディアの歴史研究書という二つの側面からなる同書がもつ、日本の北米文化・文学研究に新しいパースペクティブを切り開く可能性を高く評価する。

[区分 C]

鴻上 政明

英語諺収集—日本語と英語の使用部位の違いについて—

鴻上政明*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要第45巻, pp. 53-62, (2009.2)

日本語では、「犬」に関するものが最大で22例、第2位の「猫」は14例、第3位は「馬」で12例あった。

1. 犬の類例が22例と一番多い。

犬の遠吠え。 Dogs that bark at a distance bite not at hand.

犬も歩けば棒に当たる。 The dog that trots about, finds a bone.

犬猿の仲。 They agree like cats and dogs.

2. 猫の類例が14例と二番目に多い。

猫に小判。 A barley-corn is better than a diamond to a cock.

借りてきた猫。 To be as gentle as a lamb.

猫に鯉節。 He sets a fox to keep the geese.

3. 馬の類例が12例と三番目に多い。

馬の耳に念仏。 Preaching to the wind.

駆け馬に鞭。 A good horse oft needs a good spur.

竜馬の躓き。 A horse may stumble that has four legs.

鹿毛 敏夫

大友氏三代の閨閥

鹿毛敏夫*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

歴史読本(新人物往来社)、第54巻4号, pp144-147、(2009.2)

新人物往来社編集の同月刊誌の特集のなかで、戦国大名家の婚姻関係による血縁ネットワークが、当該期の政治や社会にいかなる影響を及ぼしたかを、写真と略系図をまじえてわかりやすく紹介した。大名家

同士の閥閥関係による領土や海域の広域的掌握に加え、兄弟大名連合による対明外交などの東アジア政策の実行の様相を明確に説明した。

鹿毛 敏夫

アジアから見た豊後大友氏

鹿毛敏夫*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

大分合同新聞、(2006. 6. 17～連載継続中)

九州の戦国大名大友氏が活動した15・16世紀は、世界史上の大航海時代に相当する。この時代、西日本各地の地域権力は、日明・日朝関係を軸に自らも主体的なアジア外交を展開し、東アジアには環シナ海交流圏とも呼べるマクロな文化圏が形成された。海域交流史における近年の活発な研究蓄積の成果を一般向けに広く還元するために、新聞紙上の連載企画として、中世日本の歴史をアジア諸国との関わりのなかで叙述する記事を昨年・一昨年度に引き続き執筆した。今年度分の連載は、以下の16テーマ。4/27「船入と大名船」、6/1「大友家の発祥地」、6/15「『おおとも』か『おおども』か」、7/6「『春日丸』の瀬戸内就航」、7/20「国際都市 府内と堺」、8/3「天秤と瀬戸内海貿易」、9/7「『環シナ海』と瀬戸内海」、10/19「観音聖地の庶民」、11/16「『九州島』からの『遣明使』」、12/7「『馬墓港』の道案内」、1/18「徳陽の道教寺院」、2/1「海峡に眠る沈没船」、2/15「岑港から出土した弾丸」、3/1「異郷での造船」、3/15「川べりのにわか造船所」、3/29「木造帆船の時代」。なお、連載は次年度以降も継続予定である。

野田 善弘

遠藤石山「大学提綱」訳注稿(三)

野田善弘*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

東洋古典学研究 第25集, pp93-104, (2008. 5)

本稿は、明治期新居浜の儒学者遠藤石山が著した「大学提綱」の邦訳である。今回は第十四章から第十五章を訳解した。

野田 善弘

遠藤石山「大学提綱」訳注稿(四)

野田善弘*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

東洋古典学研究 第26集, pp157-167, (2008. 10)

本稿は、明治期新居浜の儒学者遠藤石山が著した「大学提綱」の邦訳である。今回は第十六章から第二十章を訳解した。これにて完結。

荒木 陽子

Arcadia's Borders: A Study on the Functions of Borders and Diasporic Border-Crossers in Catherine Bush's The Rules of Engagement

荒木陽子*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

敬和学園大学人文社会科学研究所年報, 第6号, pp169-82, (2008. 5)

C. Bushの小説*The Rules of Engagement*はカナダ文学に頻出するカナダ人女性の犠牲者コンプレックスとその超越というテーマを、従来のカナダ小説がしばしばそうであったように自然の中ではなくメトロポリスという設定のもとで追求した興味深い小説である。作者は主人公の二項対立的な世界観の崩壊を効果的に描くための装置として物理的・精神的越境生活を送るディアスポラの登場人物を作中の随所に配置する。

荒木 陽子

「19世紀末マリタイム詩人による『故郷』の表象(1)—チャールズ・G・D・ロバーツ「タントラマー再訪」の試訳を中心に—

荒木陽子*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新潟大学言語文化研究 13、第 44 号, 101-109, (2009. 5)

カナダの19世紀末詩人Charles G. D. Robertsによる初期代表作品「タントラマー再訪」の和訳を試みると同時に、同作品にみられるH. W. Longfellowの*Evangelin*における地域表象の影響力を探る。

荒木 陽子

新居浜工業高等専門学校低学年向け英語多読学習プロジェクトの点検—より効果的な英語学習の実践にむけて—

荒木陽子*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要、第 45 巻, pp1-10, (2009. 2)

新居浜工業高等専門学校で 2007 年度より開始された多読学習の現状と問題点を、2008 年度の 1 年 5 組における英語 1 における取り組みを例に、Julian Bamford と Richard Day が提唱する多読学習の「10 原則」に照らし合わせ検証し、英語プログラムの改善をめざす。

荒木 陽子

カナダ、コンフェデレーション詩人とマリタイムの神話—『エヴァンジェリン』との間テクスト性から—

荒木陽子*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

現代社会文化研究、第 44 号, 201-217, (2009. 3)

Charles G. D. Robertsの作品のうち、マリタイムの風景を詠う“Blomidon”と“Tides”を取り上げ、H. W. Longfellowの物語詩*Evangelin*からの影響を論じる。

荒木 陽子

19世紀末マリタイム詩人による『故郷』の表象 (2)—ブリス・カーマン、『グランプレの干潮』の試訳を中心に—

荒木陽子*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

表現文化研究、第 5 号, 1-13, (2009. 3)

19世紀末のカナダを代表する詩人の一人、Bliss Carmanの“Low Tides on Grand Pré”を検討し、そこにあらわれる同世代のカナダ詩人、特にCharles G. D. Robertsの詩作品におけるマリタイム表象との共通

点を分析すると、両作品の共通の文学・文化的影響力としてLongfellowの *Evangeline*の影響力が浮かびあがる。

竹原 信也

地方自治体の立法過程—新居浜市の条例制定過程と条例・規則の分析—

竹原 信也

新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要第45巻, pp63-70, (2009. 2)

本稿は、事例研究として、愛媛県新居浜市を対象に立法過程、条例・規則の制定内容を調査しまとめた。その結果として、立法過程においては、条例は執行部の職員によって作成されていることがパターン化していること、議会への承認に向けて、執行部職員がフォーマル、インフォーマルな場で議員と様々な調整をしていること、議会の議案可決率が高く、修正率・否決率は低いことなどから、総じて執行部優位の状況を作り出しており、こうした態様は先行研究で指摘されていることと概ね一致していると結論付けた。

条例・規則の制定内容の分析については、まず条例をテキストデータ化し、条例の分類をした(所管別、時系列、内容別、法令の影響度)。次に条例中に出てくる市長、職員、住民、議員といったアクターの抽出と類型化を試みた。結果として、市長や職員に類型化できる単語がもっとも多いことがわかった。さらに、条例中に出てくる権利と義務を付与する品詞を抽出し、アクターとの関連性を調べたところ、権能や免除、権利は、市民・事業者や議会よりも行政職員や市長に付与されていることがわかった。

[区分 E]

塚野 修

多読の試み—新居浜高専—

塚野修

新居浜工業高等専門学校一般教養科

平成20年度四国地区高専共同事業FD研修会 平成20年8月1日

平成19年度より本校で開始した多読指導について、導入に至る経緯、平成19年度が多読指導の内容と結果、学生からのアンケートによる評価、それに基づいて修正を加えた平成20年度が多読指導の内容についての報告を行った。

鹿毛 敏夫

16世紀の環シナ海域交流と瀬戸内海

鹿毛敏夫[※]

[※]新居浜工業高等専門学校一般教養科

伊予史談会、(2008. 4)

松山市で開催された同研究会において、東アジア海域世界の地理的・地形的特質と、環シナ海域の古代・中世における中国を中心とした国際的政治・経済秩序を踏まえて、「16世紀の瀬戸内海」の新しい見方を提示した。関門海峡や豊予海峡に残された文献史料の分析や、内海を縦断する大名船に関する文献・考古史料の考察により、インド洋や地中海世界とは異なる東アジアの海域世界の特質を明らかにすることができた。

鹿毛 敏夫

日本戦国大名大友宗麟的遣明船

鹿毛敏夫※

※新居浜工業高等専門学校一般教養科

浙江工商大学国際シンポジウム「東亜文化交流～人物往来」、(2008.7)

中国の杭州で開催された浙江工商大学日本文化研究所主催の同国際シンポジウムにおいて、16世紀日本の戦国大名大友宗麟が中国に派遣した遣明船に関わる文献史料を紹介するとともに、その3度にわたる対明交渉から、日明間の勘合貿易システムの一翼を担い、更にはその継承者になろうとする同氏の一貫した姿勢を読み解いた。また、「遣明使」の概念をめぐる日本側研究者と中国側研究者の認識の相違についても議論した。

鹿毛 敏夫

中世の九州とアジア

鹿毛敏夫※

※新居浜工業高等専門学校一般教養科

「旅する長崎学」連携講座、(2008.9)

ユネスコ世界遺産の暫定リスト入りした「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の正式登録をめざす長崎県主催の同講座において、16世紀の西日本諸地域における「キリシタン」文化の開花の前提として、13～16世紀の中世西国社会の「アジア」文化の存在を具体的に明らかにし、一般市民向けにわかりやすく概説した。また、パネル・ディスカッションにおいては、川村信三上智大学准教授とともに、流入期のキリスト教への日本人信者の理解度や、「南蛮」という言葉で称されたポルトガル・イスパニア文化の意味について議論した。

鹿毛 敏夫

川からの中世都市

鹿毛敏夫※

※新居浜工業高等専門学校一般教養科

科学研究費補助金基盤研究「中国浙江省における戦国大名沈没船に関する日・中共同研究」研究会、(2008.10)

同科研の研究会・シンポジウムにおいて、古代に川の河口で営まれた河原市が後の中世都市へと拡大発展していく様子や、中世の川の河口地域における津・浦・浜の社会的機能、更には、中世後期の守護大名や戦国大名による川の河口を利用した大名船の係留や河口を前衛空間とした城下町建設の実態について、史料を提示しながら具体実証した。また、パネル・ディスカッションにおいては、発掘10周年を迎えた大友氏館跡と豊後府内の中世都市遺跡について、これまでの研究成果と残された課題について、一般市民向けにわかりやすく解説した。

鹿毛 敏夫

日本「九州大邦主」大友氏與舟山島

鹿毛敏夫※

※新居浜工業高等専門学校一般教養科

浙江省中日関係史学会国際シンポジウム「舟山普陀與東亜海域的文化交流」、(2009. 1)

中国の寧波大学で開催された同国際シンポジウムにおいて、カンボジア国王から「九州大邦主」と呼称された日本の戦国大名大友氏が、中国へ派遣した外交使節の具体的人物とその活動の状況を明らかにするとともに、特に、寧波に近い舟山群島に上陸した人物の外交交渉活動に焦点をあてて、同使節団にとっての舟山群島の歴史的意義について考察した。

木本 伸

文学はごみである ― ベルにおけるフモールの概念をめぐる

木本伸*

* 新居浜工業高等専門学校一般教養科

日本独文学会春季研究発表会, 立教大学, (2008. 6. 15.)

概要

ハインリヒ・ベルにおけるフモールの概念を中心とした文学論である。

木本 伸

ヒルシュビーゲル『エス』試論 ― もうひとつの近代への希望 ―

木本伸*

* 新居浜工業高等専門学校一般教養科

広島独文学会第 89 回研究発表会, 広島大学, (2009. 2. 14.)

ヒルシュビーゲル監督によるドイツ映画『エス』の作品解釈である。

福光優一郎

日本語意味処理に関わる ERP の幼児期における発達的变化と英語活動の影響

鈴木結花*1、柴田寛*2、福光優一郎*3、小泉政利*1、行場次朗*1、萩原裕子*4

*1 東北大学大学院文学研究科、*2 京都大学大学院情報学研究科、*3 新居浜工業高等専門学校、

*4 首都大学東京人文科学研究科

日本認知心理学会第 6 回大会 2008 年 5 月

日本語の意味逸脱処理に関わる事象関連電位 (ERP) の発達的变化および英語活動の影響について、日本語を母語とする幼稚園年少と年中の幼児を対象に縦断的に調べた。意味的に逸脱した文と逸脱していない文を聞いたときの ERP を測定した結果、意味処理に関連する N400 が年少児と年中児の両群で観察された。N400 の潜時は年中児の方が年少児よりも短く、頭皮上分布は年少児で左寄りであるのに対して年中児では右寄りであった。意味処理に関連し、これまで幼児では出現が報告されていない後期陽性成分 (LPC) が年中児においてのみみられた。英語活動の頻度と N400 との関連では、頻度高群の方が低群よりも年少児では広い頭皮分布を示し、年中児では頻度高群の方が低群よりも潜時が短かった。本研究の結果から、就学前児の母語の意味処理に関わる ERP 成分が、時間帯および頭皮上分布において発達にともなって変化し、幼稚園における非母語 (英語) 活動も ERP 成分に影響をおよぼす可能性が示唆された。

荒木 陽子

カナダ沿海州の鉄道開発と文学―エヴァンジェリンの観光への影響

荒木陽子*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

日本アメリカ文学会東北支部総会研究発表(東北大学)、(2008. 4)

19世紀後半カナダ文学の独立を目指したコンフェデレーション詩人の一人、Charles G. D. Robertsは、Longfellowの*Evangeline*が創造したアカディアのイメージを用い愛国的な詩作を進める一方、同様のイメージを利用して旅行ガイドを書きカナダ沿海州のアメリカ人向け観光地化を促進した。ロバーツの愛国的な詩を書くための副業は皮肉にも間接的に20世紀のカナダ文学作品中でしばしば登場する「自然=カナダを買収するアメリカ人旅行者」のイメージの原型をつくったことを、ロバーツが19世紀末に発表した散文作品を主たる題材に検証する。

荒木 陽子

故郷を想像/創造する— H. W. Longfellow の *Evangeline* と 19 世紀末英語系カナダ詩人たち—

荒木陽子*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

日本アメリカ文学会第47回全国大会(西南学院大学)、(2008. 10)

カナダ英語圏のナショナリスト詩人が、合衆国人H. W. Longfellowが「合衆国」の延長として詠った「仏領カナダ像」、そして「アメリカ人の創出したカナダ観」をもとに、彼らの故郷である「カナダ像」を創造していたこと、そしてその背景には、カナダ人作家が国内で生計を立てることが困難であった、黎明期のカナダ文壇特有の状況が存在することを明らかにする。

竹原 信也

高専における消費者教育・法教育の試み

竹原信也

新居浜工業高等専門学校一般教養科

平成 20 年度全国消費者フォーラム (2008. 12)

高専生は卒業後すぐに社会生活を送っていくため限られた時間の中でも充実した消費者教育・法教育が求められる。このような前提のもと本科科目「法学」と専攻科科目「現代社会と法」の授業活動を報告した。事例問題や映像学習、グループワークは有効だが、その意欲を継続したまま、法律の基本的知識や条文の読み方、民法と消費者法の仕組みを講義することの難しさ等を報告した。